

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第62回放送の概要 (2013年3月30日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) ヴィッセル神戸の森岡亮太です。血液は人工的に作ることは出来ず、長い期間保存することも出来ません。皆さんの献血が尊い命を救います。共に行こう献血へ。日本赤十字社。

1. オープニング

本日は岡野雅昭さん (64 陽会) とあこちゃん (70 陽会) がパーソナリティでお送り致します。この番組には若い方に入ってきてもらいたいと考えており、今回はいつもの放送スタッフよりかなり若い世代による放送のため、時間合わせが難しく初めての収録による放送になりました。岡野さんは昭和 33 年 (1958 年) 生まれです。

2. ゲストコーナー (1): 磯崎良一さん (72 陽会)

磯崎さんは元関西フィルハーモニックのホルン奏者で、体調を崩し苛酷なスケジュールをこなすのが難しくなり、フリーとして活動していたが、ワインとの縁があり現在阪急六甲でワインショップ「アンプロンプチュ」のオーナーとして活躍されています。

音楽を始めたのは、駒ヶ林中学吹奏楽部に入部したのがきっかけで、入学し色々な部を廻っている時に、演奏の音が聞こえてきたので聴きにいった。前から楽譜を読めるようになりたいと思っていたのでその日に入部した。また姉が吹奏楽部ということもあった。家庭は父方の祖父がバイオリンを、祖母がマンドリンを弾いていたということを父親から聞いたことがある。姉も吹奏楽部でホルンを担当していた。母は中学生の時コーラス部だった。ご両親は神戸のモボ・モガですね (「モダン・ボーイ」「モダン・ガール」の略)。

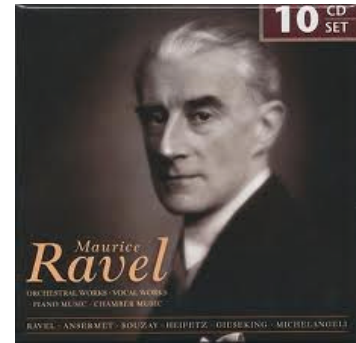
ホルンを選んだのは先輩が決めたためで、当時ホルンの事はよく知らなかった。中学 1 年生の時、兵庫高校吹奏楽部と一緒に練習することがあり、その後何度か兵庫高校に出かけ、練習を一緒にした。その時教えてもらった先輩がとても親切で、楽しく演奏するきっかけになり、レベルの高い学校であることを知り、進学は兵庫高校と思った。高校では土、日なく、昼休み、放課後も練習で、楽器づきの生活であったので、高校時代の思い出は吹奏楽である。夏の甲子園大会では、開会式と閉会式の演奏が 1 年おきに兵庫県と大阪府の高校になっており、磯崎さんは 1 年と 3 年の時に出場した。3 年では閉会式の時に、決勝戦が PL 学園と取手二高で、PL は清原、桑田選手が大活躍していた。



3. ミュージック (1): モーリス・ラヴェル作曲「亡き王女のためのパヴァーヌ」

ラヴェルの有名な曲は「ボレロ」ですが、パヴァーヌは16~17世紀の宮廷舞踏で、もとはピアノ独奏曲のために書かれたもので、ラヴェルがその後オーケストラのために編曲した。亡き王女のモデルはルーブル美術館のベラスケスの描いたマルガリータ王女の肖像画ではないかと言われている。

演奏はアンドレ・クリュイタンス指揮、パリ音楽院管弦楽団です。この管弦楽団は1967年に解散し、現在のパリ管弦楽団の前身である。1964年、東京オリンピックの年に最初で最後の来日公演があった。この管弦楽団の団員であるホルン奏者は磯崎さんがフランスに勉強に行った時の先生であった。初めて聴いた時憧れてしまい、関西フィル在団中であつたが1年間は休めるという制度があつたので渡仏し、レッスンをして頂いた。当時先生はすでに78歳で、学校教えることはなかつたので、プライベートレッスンを受けた。短期間のレッスンとなるので日本とパリを行き来した。



4. ゲストコーナ (2)

1年生の時からプロになりたいと思い、桐朋学園に行った。中学生の時に両親に楽器に関する職業の事話した時、先生からは食べて行くのに大変と言われ、両親も難しいと言つたが最終的には両親に反対される事はなかつた。思い通りの道を進ませてもらった。

関西フィルに入ったのは、学生時代に関西フィルの演奏会があり、演奏者が通常4名のところ3名であつたので声をかけてもらい、演奏の機会が得られた。音色が非常にきれいだったので関西フィルに入団したいと思った。オーディションを受け、半年間の試用期間を経て正式団員になった。桐朋学園には兵庫高校の先輩で作曲を教えていた平吉毅州先生(42陽会)がおられた。磯崎さんが先生に兵庫高校出身と言つてご挨拶に伺つた時、「君か」と言われ、おおいに緊張した。楽器だけでなく色々な勉強をするように言われた。その後も暖かく接して頂いた。

5. ミュージック (2): ガブリエル・フォーレ作曲 即興曲 作品86番

ハープの独奏曲で演奏はアニー・シャランさんです。ハーピストにとっては重要なレパートリーで、しかし一般的にはあまりなじみのない曲です。アニー・シャランさんはパリオペラ座の演奏者で、磯崎さんの先生と同僚であつた。

6. ゲストコーナ (2)

関西フィルでは交響曲や協奏曲だけでなく、バレエやオペラ、映画音楽やポップスなど色々なジャンルの演奏をしていたので、入団して良かったと思つた。バレエではバレリーナの踊りに曲を合わせる必要があり、集中力、緊張感が必要であつた。演奏席は客席より舞台に近いので、ハードな動き、息遣いが聞こえ、迫力が伝わってきた。

ワインの道に進んだのは、音楽をしている時に体調を崩し、スケジュールをこなすのが大変になり、退団し、フリーで活動していた。生徒さんを教えたりする中で、音の説明にはワインのコメントが参考になるのではと思ひ、また料理とワインのマリアージュ(食べ合わせ)は、音楽のハーモニーに役立つのではと思つたことなどからワインに興味を持ち始めた。そしてワイン学校で基本を学び、実家が元々酒店で仕事を見ていたので、親に音楽で苦勞をかけてこともあり、親と同じ道なら力添えをしてくれることもあり始めた。これからワインを楽しみたい方に対するアドバイスは、ワインは赤、白、ロゼ、甘口、辛口、スパークリングなど種類が多く好みはばらばらである。興味を持ったところから入り、無理

のない値段の所から試し、味を試していく中で好みを絞って行くのがいいと思います。

ワインショップ「アンプロンプチュ」の場所は、阪急六甲駅北側へ徒歩3分、フランス国旗が目印で、駅からは三井住友銀行、イカリスーパーが目印で、六甲幼稚園の北側です。昨年からは初心者向けワイン教室を土、日に行っており、ワインにまつわる話をし、色々なワインを味わってもらい、お好みを見つけてもらうようにしている。手作りのレジメも用意し楽しんで頂ける教室にしている。ホームページもあります (<http://impromptu.sakura.ne.jp/>)。教室には幅広い世代の方が来られています。



7. 来月のゲスト

来月は 兵庫県立大学 震災支援サークル「ブリッジ」の皆さんにお越し頂きます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com